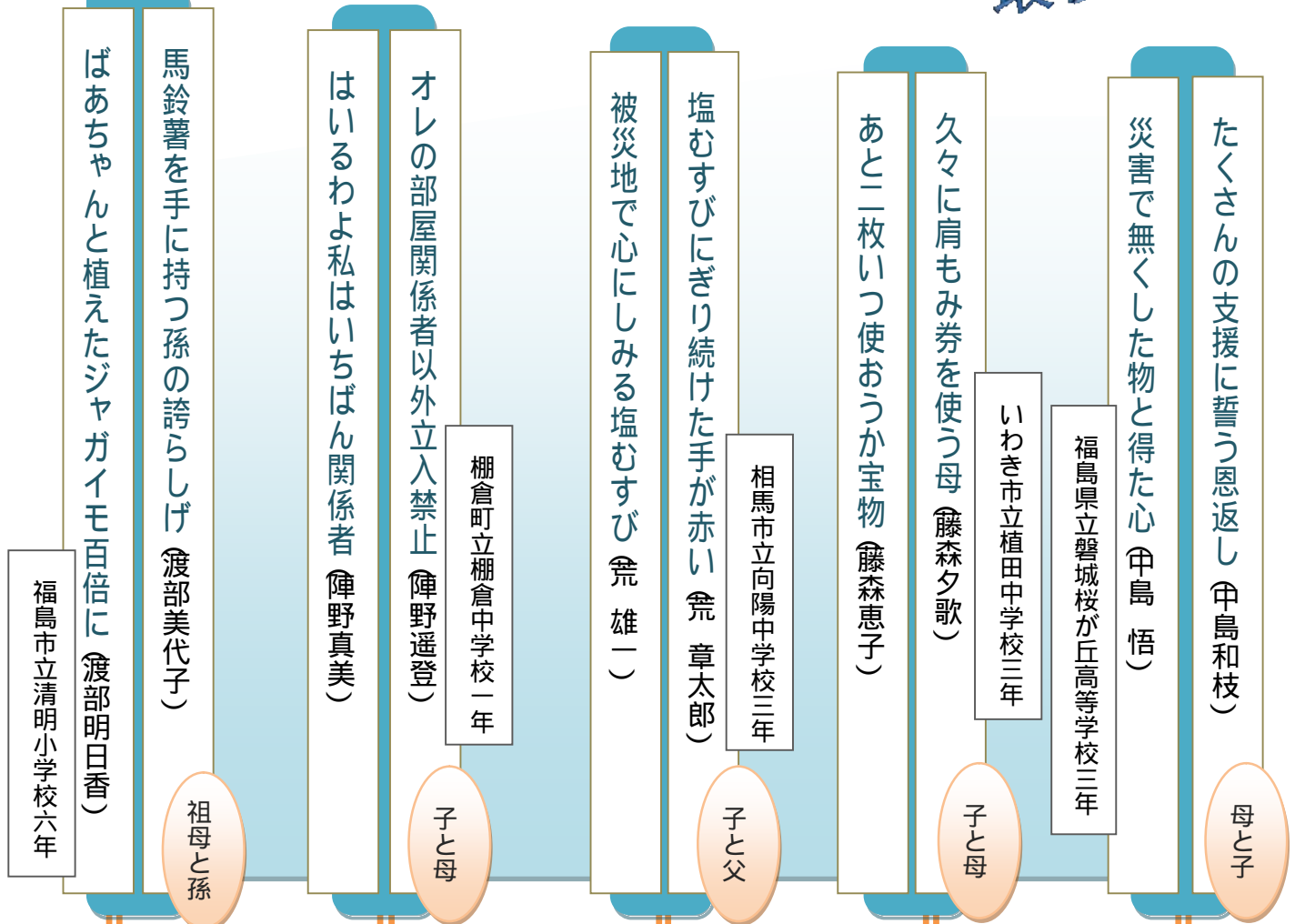


平成23年度「十七字のふれあい事業」

入賞作品

最優秀賞



ここはオレの部屋だ、とその戸を閉める息子。まだまだ心配だと母親。子どもの成長と母親の思いがしっかり伝わってくる作品です。部屋にたまったごみはすぐに片付けることができますが、心の整理整とんはますます難しくなってきます。心も身体もともに大きく育っていく中学生の息子の言動と、だから心の扉は閉ざさないで、とそう願う母親の気持ちがよく表現されています。(清野)

未曾有の大震災、心も体も悲鳴を上げる様な異常な状況の中で、自分ができることをしっかりと頑張ったお子さんの姿に感動です。お子さんの奉仕活動への係わりは、お父さんの人の命を守る消防団員という後ろ姿の教えによるものと思われます。お父さんの思いも作品から十分伝わります。すばらしい親子の関わりに敬意を表します。(坂本)

すっきりと句作された二句が呼応して一体となり、親と子の心情それに世相までの的確に表現されています。「無くした物と得た心」というすばらしい表現に知性の一端を見る思いがします。誰もが一読して納得ができる作品となりました。(津村)

一緒に植えたジャガイモが、収穫時に「百倍に」という表現から明日香さんの驚きと感動が伝わります。また、おばあさんの素直に成長したお孫さんを見つめる慈愛の視線も感じます。自ら汗することを通して、ものの成長過程を知るとは、豊かな心を育むことだと思います。これからも様々な体験を通して自分みがきに頑張ってほしいと思います。(坂本)

「えっ、まだ持っていたのお母さん。」肩においたわが娘(こ)の手に、今、母が感じるのは、幼子の時からの優しい気持ちと心身ともに健やかに育っている我が娘の心のぬくもり、でしょう。親娘(おやこ)のそれぞれの思いが、肩もみ券を挟んで見事に表現されています。人の心の優しさは、それを感じる人によってさらに大きくなるようです。さて、この宝物の肩もみ券、次にはさみが入るのは、いつでしょうか、楽しみ、ですね。(清野)

審査員の皆様から、最優秀賞作品についての講評をいただきました。

優秀賞

アクアマリン魚に会えてうれしいな 生命の輝き伝えるきぼうたち
 (郡司遼太郎・小野町立夏井第一小学校3年) (郡司さち江) <子と母>

重いけど家族のためにくんだ水 断水が心届けるいのち水
 (鈴木未留・西郷村立熊倉小学校6年) (鈴木良博) <子と父>

うで相撲たまには負けたふりするよ 手加減がいつの間にやら加減され
 (蕪木佑伍・白河市立白河第二中学校1年) (蕪木光恵) <子と母>

たのしいねばあといっしょになすばたけ かがいっばいなすときゅうりとまごの笑顔
 (穂積花帆・白河市立表郷幼稚園 年中) (室悦子) <孫と祖母>

ざっ草で先が見えない常磐線 草の丈過ぎしき日々をものがたり
 (宗像莉奈・南相馬市立原町第三小学校4年) (宗像聡子) <子と母>

佳作

あっじしんぼくがまもるよじいちゃんを ゆれるたび祖父を抱える小さな手
 (佐々木颯真・福島市立大笹生小学校3年) (佐々木野里子) <子と母>

チャンバラで子どもにかえるおじいちゃん 炎天の熱風も切るか豆剣士
 (本宮蒼太・白河市立小野田小学校3年) (橋本満) <孫と祖父>

震災で家と心が揺れ動く 時計落ち止まる気持ちに電池入れ
 (佐藤遥希・西郷村立西郷第二中学校1年) (佐藤洋子) <子と母>

お父さん石けんないよこのおふろ 山小屋で学びし尾瀬の自然保護
 (安部心裕・会津若松市立小金井小学校3年) (安部寿徳) <子と父>

つえついで町たんけんの夕すずみ 孫むすめ歩はばをあわせてゆっくりと
 (多田樹理亜・会津若松市立小金井小学校3年) (多田三代子) <孫と祖母>

会いたいな丸い目をした牛たちに 息絶えし静かな牛舎に香を焚く
 (渡部秀樹・南会津町立田島小学校3年) (渡部公平) <子と父>

祖母のゆびぬいてあげたいなすのとげ 野菜採り子守りの孫に助けられ
 (湯田愛加・下郷町立旭田小学校3年) (湯田カツ) <孫と祖母>

せつでんだうちわをつかうおじいさん 汗流し祖父を思いうちわ振る
 (菅野和志・相馬市立大野小学校2年) (菅野邦夫) <孫と祖父>

大丈夫！いつもの夏がきつと来る 夏休みたたみの上で平泳ぎ
 (清信律子) (清信歩花・相馬市立日立木小学校5年) <母と子>

家の跡涙をふいて手をつなぐ 大津波心の痛みも連れていけ
 (吉内史芳子・相馬市立中村第二中学校3年) (菊田誠) <孫と祖父>

審査員紹介



津村 栄 氏 元公立学校校長 (伊達市在住)
 坂本忠雄 氏 元公立学校校長 (矢吹町在住)
 清野 要 氏 元公立学校校長 (福島市在住)

【全体評】審査員長 津村 栄 氏
 数百年あるいは千年に一度とかの災害の中にもかわらず、約三万二千組(六万四千人)もの参加作品がありましたが、次の観点から審査いたしました。
 「五七五の基本を守っているか」、「実体験に則し、二句一体での情景描写の度合いはどうか」、そして、最
 大重視したのは、特徴ある表現であるかという点です。
 今回(第十回)の作品は、過去九回のそれに比しても決して見劣りしないレベルであったと思います。最優
 秀(五組)、優秀(五組)、佳作(十組)を選考してみても、これらの差は僅少で序列をつけるのにたいへん苦勞い
 ました。
 その中から特徴ある、印象に残った表現を列記しておきます。(優秀、佳作の分)
 ○家と心が揺れ動く○たたみの上で平泳ぎ○いっしょの間にやら加減され○牛舎に香を焚く
 最後に、特に紙面で報告しておくことがあります。前回の参加数の約二十七パーセント減の中にあつて
 南会津管内の参加数の増加と県南管内の質と量の両面での上昇傾向はうれしい限りであるということです。
 ありがとうございます。